

間欠冷蔵処理がイチゴ‘さぬき姫’の開花及び収量に及ぼす影響

松崎朝浩・近藤弘志

香川県農業試験場研究報告 第 67 号 (2017 年 3 月) 23-32

イチゴ栽培において年内収量を増やすことは、収益性の向上につながり、これまで様々な花芽分化促進法が検討されてきた。‘女峰’でその効果が明らかになった間欠冷蔵処理が‘さぬき姫’の開花および収量に及ぼす影響について、処理間隔、処理回数、処理温度、育苗方法について検討した。

1. ‘女峰’と同様に‘さぬき姫’においても間欠冷蔵処理により頂花房の開花が早まった。
2. 間欠冷蔵処理の間隔と回数は 2 日間隔の 4 回処理、3 日間隔の 3 回処理には明確な差が見られなかった。4 日間隔の 2 回処理は、処理開始日により効果に差が見られた。
3. 処理温度については、13°C より 15°C で高い開花促進効果が得られた。
4. 6 月末から 7 月中旬までの挿し苗時期による効果の差は僅かであるが、遅い挿し苗時期の株に開花が遅れるものが見られた。
5. 6 月末から 7 月下旬までの受け苗時期による効果の差は僅かであるが、遅い受け苗時期の株に開花が遅れるものが見られた。

キーワード：小麦粉色，外観品質，タンパク質含有率，硝子粒，測色計